支部だより

CPIJ Branch Letter

中部支部

通常総会並びに講演会・視察会報告

中部支部では、平成25年4月6日、愛知県瀬戸市の「瀬戸蔵」において、平成25年度通常総会及び講演会・見学会を開催した。その要旨を報告する。

◆研究会支援事業の報告

「ソーシャル・キャピタルと鉄道まちづくり研究会」

報告者：岐阜工業高等専門学校　坂本　淳 氏

岐阜工業高等専門学校の坂本淳氏より「ソーシャル・キャピタルと鉄道まちづくり研究会」と題した報告を頂いた。この報告は中部支部が隔年で実施している研究会活動支援事業として平成24年度に採択された研究の成果報告である。

この研究会では、近年存廃問題が浮上している岐阜県の第3 セクター鉄道である樽見鉄道を対象として、鉄道を抱える地域において、地域が鉄道の存続を希望する場合に地域住民とともに鉄道を軸としたまちづくりをどう進めていくか、を着眼点として調査が進められた。

ソーシャル・キャピタルと鉄道まちづくりの可能性を探るため、住民等へのアンケート調査・分析に加えて、市政だよりを活用した広報活動、学生による報告会等も行われている。

こうした活動の結果、鉄道まちづくり活動に対する地域住民の参加意向が確認された。今後は、同地域の鉄道再生・活性化に向けた活動に積極的な住民と協働して、具体的な活動に発展していく予定と報告された。

◆講演会の報告

「瀬戸市の都市計画の歩みと展望」

講師：瀬戸市道路建設課　小林 義則 氏

瀬戸市道路建設課の小林氏より、瀬戸市の都市計画の歩みと展望について、中心市街地整備事業（パルティせと、尾張瀬戸駅駅前広場、瀬戸蔵、瀬戸川プロムナード線）や瀬戸市都市計画マスタープランについて、その取組を説明いただいた。また、瀬戸市の交通計画として、瀬戸市まちなか交通戦略や新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺のバリアフリー計画の事業内容についても説明があった。

瀬戸市では、平成27年を目標年次とした都市計画マスタープラン（平成7年策定、平成19年改訂）に基づいて実施されてきた都市整備事業に加えて、平成17年の愛・地球博を契機に整備された東海環状自動車道をはじめとする都市基盤施設や愛知環状鉄道へのＪＲ乗入などにより、製造業や観光など地域産業の様々な面で効果が現れていることが説明された。

今後の展開としては、瀬戸市の人口は緩やかながらも減少傾向にあるとともに人口の高齢化への対応も必要であることから、平成28年の運用開始を目途として新都市計画マスタープランの策定を進めていくことが報告された。

小林氏の講演

◆視察会：瀬戸蔵、瀬戸蔵ミュージアム

当初の予定では、瀬戸市中心部（河川・道路整備、商店街、再開発ビル等）を視察する予定であったが、荒天のため見学先を屋内に切り替え、会場となった瀬戸蔵および瀬戸蔵ミュージアムを見学した。

瀬戸蔵は、歴史的・文化的資源を活用して、まち全体を屋根のない博物館に見立ててまちづくりを推進する「せと・まるっとミュージアム構想」の拠点施設となっている。屋上には展望室が設けられており瀬戸市街が見渡せる。瀬戸市役所職員の方より、市街地の町並みや中心市街地整備の状況について解説を頂いた。

その後、瀬戸市の伝統産業である窯業に焦点を当てて、瀬戸やきものの歴史、やきもの製造の工程、窯業道具や製品を展示・紹介する産業観光施設「瀬戸蔵ミュージアム」を見学した。

瀬戸市街の視察（瀬戸蔵にて）

（当報告は公益社団法人東三河地域研究センター 主任研究員　髙橋大輔が担当した）